

平成23年度(2011年度) 「地質調査技士登録更新講習会」報告

技術委員会 小原 茂樹

平成23年度の東北地区の地質調査技士登録更新講習会は、平成23年11月4日(木)に「仙台国際センター」で、受講者数246名で開催されました。

登録更新講習は、平成25年度から①現在同様に更新する方法と、②CPDの取得による更新かを選択できるため、今回は改正まで残り2回となった登録更新講習会です。

東北地区では東日本大震災の調査対応に追われる地元受講者が大半で、何時にもまして緊張した面持ちでの聴講が印象的でした。

第1章では、「地質調査・地質調査技術者の役割」について、地質調査技術者の教育と訓練システムや技術者倫理など、地質調査技士の「あるべき姿」を再認識しました。地質調査分野の最近の動向では、地震災害の防止に関する説明文に「東日本大震災に伴う、自治体の防災計画見直し」が追加されており、関心の高い聴講でした。

第2章の「地質調査の現況と環境変化」では、はじめに2010年度の地質調査業務の総額事業量がピーク時(1995年)の約4割に減少している厳しい現況が報告されました。それに伴い「地質調査業務に関する入策・契約制度等」、「標準契約約款の制定」、「独占禁止法の運用強化」など、取り巻く環境が変化していることを再認識し、「地質調査業の環境関連分野」や「地質調査業の展開可能領域」など環境変化への対応が求められていることを再確認しました。

第3章の「調査基本技術と安全管理・

現場管理のレビュー」では、ボーリング調査に関する基本技術・留意点などの講習に加えて、「調査・計測方法の国際標準化の動き」の中でトピックスとして現在、地盤工学会で検討を進めている調査方法(標準貫入試験・オランダ式二重管コーン貫入試験)の改正について報告されました。

第4章の「地質調査に係る技術動向」では、「物理探査技術の動向」、「新しい現場計測の動向」について学びました。平成22年4月に施工された「土壌汚染対策法」については、「土壌・地下水汚染調査技術の動向」として確認しました。

なお、今回のテキストは、平成23・24年度に使用するテキストとして作成され、従来、テキストの巻末資料として掲載されていた「日本列島の地形・地質環境の特性」は全地連のホームページに移行・掲載されております。

登録更新講習会は昭和59年度から導入され、平成25年度から新方式に変わるため、これまでより講習会規模が小さくなり、地質調査技士が一同に会する機会が少なくなることが予想されます。今後も登録更新講習会は技術の研鑽、技術の伝承、技術者交流の場として益々重要となるため、地質調査業協会を主体に関係機関と連携を取りながら実施していく必要があります。

最後に、丸1日という長時間にわたる講習会が、震災対応で多忙のなか受講者の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができましたことに対し、技術委員会・事務局一同心より感謝申し上げます。



登録更新講習会の受講状況(その1)



登録更新講習会の受講状況(その2)